

埼玉育ちのグローバル人

～また帰りたくなる国～SAMOA

第3回 「練習を見学していた親子にとつた、
サモア代表選手たちのファンサービス」

前 JICA 東京 埼玉デスク 国際協力推進員

土屋 雅人



埼玉県マスコット「コバトン」



日本代表の活躍もあり、大盛況となったラグビーワールドカップ2019TM日本大会(以下、RWC2019)。メディアの注目が日本代表や優勝したスプリングボックス(南アフリカ代表)、3連覇をかけて大会に臨んでいたオールブラックス(ニュージーランド代表)に集まっておりましたが、出場した20か国それぞれにまだまだ知られていない心温まるエピソードがあったことは想像に難くないと思います。

今号はチーム帯同させていただいた身だからこそ知りうる、私の知る限りメディアで取り上げられてはいない、サモア代表選手たちのファンを大切にしている行動を紹介させていただきます。

RWC2019は全国12会場で行われており、予選プール4試合はすべて異なる会場での試合であったため、各チームは公式キャンプ地から各試合会場に向けて少なくとも4回の国内移動を強いられておりました。北海道から九州まで全国各地で開催されたため、移動手段として飛行機や新幹線を使うことが多く(※サモアの場合、新幹線1回、飛行機移動2回、バス移動1回)、荷物量と積載量の関係から必然的に人と荷物は別移動となり、移動日は練習せず(出来ず)に移動+リカバリーに当てるチームがほとんどでした。



サモア代表も移動日はチーム練習なしとして、移動完了後の活動は選手自身に委ねられていましたが、選手によっては「長時間座っていて固まった身体をほぐしたい」「軽くパス練習をしてボールの感覚が鈍らないようにしたい」と宿泊先周辺で軽めの運動を選択する選手も多くいました。

しかしながら滞在先によってはホテル内/周辺に身体を動かせる施設がなく、選手やコーチ達から練習場所について問い合わせを受けることもしばしば。一旦は「残念ながらホテル周辺で練習場所は

ない」と回答したものの、コンディション調整のために体を動かしたいサモア代表の選手たちが、宿泊先となりのあまり車の停まっていなかった駐車場でパス練習を始めてしまったことがありました。(もちろん、ホテルの方からクレームを受けたのですぐに中止となりましたが…)

このように急遽始まった選手数名による練習を、たまたま通りかかって見学していた親子がいました。お母さんと手をつないでいる小学校低学年を思われる男の子の手にはラグビーボール

(RWC2019 関連グッズと思われる)。サインをもらいたい様子が伝わってくるものの、練習中の選手たちに声をかけられずにいました。

そんな様子を見かねた選手の一人が、その場に居合わせた日本人スタッフのもとに歩み寄り、上記親子に向けた伝言を依頼しました。

『練習が終わったらサインしてあげるから、帰らないでもう少し待っていてほしい』

なんと、選手側から偶然居合わせたファンに対してファンサービスの申し出が行われたのです！実際に選手からサインをもらえた子供の嬉しそうな表情は、周りの大人たちも幸せにする素敵な笑顔でした。

(※残念ながらこのシーンの写真はありません…)

今大会のサモア代表は、コーチ・マネジメント側の意向により、練習の一般公開や市民交流イベントにあまり積極的ではありませんでしたが、選手たちは本当にフレンドリーで、こうしたファンや市民との交流を選手自身も楽しんでおり、実際に選手と接した日本人はみなサモア代表のファンとなってくれました。



滞在したそれぞれの都市で、本当に多くの方々から『サモア応援します！』と声を掛けて頂いたこと、特に日本代表と対戦後に訪れた福岡市で『日本戦の戦いぶりを観てサモアを好きになった！』と言っていただいたこと、自分のことのようにうれしかったです！

サモアへの応援ありがとうございました！